

ないと思ってしまう。でも村松さんは、策士だけど仕切ろうとしていない。

村松 みんなが主体的に関わってくると、ワクワクして全部うまくいくというか。日本の風土だと、言い出した人が頑張らなければいけない雰囲気ですが、そうではなくて私は「提案してくれるのは、それ自体が素晴らしいことなんだよ！」って思っていますし、みんなにもそう言っています。誰かの何かには響くし、自分が今は出来なくても、実現出来る時がきつと来るから、「アイデアや願いはいくら言っても良いんだ」とみんなに思ってもらって、意見を言いやすい環境づくりを大切にしています。

住み良いまちは自分たちの手で

杉山 いいですね！「主体的に自分たちの住む世界や暮らしを創っていく」とか「自分たちの手でまちづくりや楽しいことをしていく」という意識を持った人が、これから人口減少する日本でたくさん必要だと思っています。

例えば、近所の公園のここをこうしたいと思ったときに、それを行政に頼んで税金を使ってやるのではなくて、同じ思いを持つ地域の人たちで毎日少しずつ協働作業をしたらすごくいい感じになるとか。そういう活動を出来る人たちが増えてほしいし、そういう活動をするのが普通のことなんだという雰囲気が広まると良いな、と。

村松 本当に、そう思います！ 私は数年前まで、行政とか市政が自分の生活に密着しているとは思っていませんでした。やはり行政は、課題に優先順位みたいなことをつけていかなきゃならないから、全ての人の要望に応えることは出来ないでしょう。だけど「自分たちのまちは自分たちで住みやすくしていこう」と自ら動いていけば、そのうち行政も動いて、段々と住みやすいまちになる。そういうことなんだなあって感じました。

杉山 私が地域活動をしようと思ったきっかけは、子供が2歳のときでした。5月になると、上谷戸親水公園に鯉のぼりがたくさん揚がることを「広報いなぎ」で知りました。それで、初めて遊びに行ってみたら、おじさんがさきイカをくれてザリガニ釣りをさせてくれたんです。空にはたくさんの鯉のぼりが泳いで、カニやエビも獲れるし、取りたてのタケノコも売っている。「こんなに良い公園が地元にあるんだ！」と感動しました。

それまで私は、週末になるとリュックにおむつや着替えを入れて、車でどこかのショッピングセンターへ子供を連れて行くか、いつもの公園に遊びに行くだけ。地元のことを知らないから、そういう過ごし方しかなかったんです。水遊びで濡れてもすぐに帰れるような場所が近くにあるんだったら、コンビニでおにぎりでも買ってふらっと遊びに行ったほうが、どれだけ充実した時間を過ごせることか！

村松 そう、実は地元が良いところがたくさんあるんですよ！

杉山 そう！ それを知ってほしいという思いがあるんです！ そのために公園マップを自分たちで作ろうとしたんです。地域って、よく見てみると楽しいよ、あれこれみ

んなで共有したらもっと楽しくなるんじゃない？って。

南山で私が動いているのも、根本は同じです。色々な思いを表面化させて、あれこれみんなでも共有したい。そこから、防災意識だったりお祭りだったり、地域を安全で楽しいものにした気持ち

形になると思っています。南山はまだ地区として一体化してなくて、地域に防災関連の体制が整ってなかったりするんですよ。でもそういうことは誰かがやらないと、本当に災害が起きたときに困るじゃないですか。だから、そのための組織作りも大事だと考えています。

思いのある人を後押しする仕組みを

司会 話は尽きませんが、最後に、稲城のまちがこんなふうになったら良いなと思うことはありますか。

杉山 私は、今日のようなお話をもっと前から聞きたかったです。村松さんから、みんなが主体的に提案したり活動している様子を聞いて、本当にすごいと思いました。やはり色々な人の話を聞いて、「それは私も感じていたことだけど、同じように思ってた人がいたんだな、やっている人がいるんだな」って知ると、一歩踏み出すのを後押ししてくれると思うんです。だから、色々な活動をしている人の交流の場を増やすことが大事だと思いました。

あとはキュレーション（情報を集め整理して広める）の仕組みですね。平尾の情報はこうだよ、百村の情報はこうだよと、地域の情報交換が出来ると良いですね。動ける人、動きたい人はたくさんいると思うんです。みんなを後押しする情報発信などの仕組みづくりを、サポートセンターにはお願いしたいと思いました！ 動くのは当事者の私たち。でも最初の一步を踏み出せる場所・サポートをするよ、と是非広く伝えてほしいです。

村松 「なぜ地域コミュニティが必要か？」と考えたときに、一人じゃ寂しいから、一人じゃ何も出来ないからだ、と考えていましたが、今杉山さんがおっしゃったことそのまま、と思いました。本当に一人じゃ出来ないけど、同じように活動している人があそこにもいる、ここにもいる、と見えるだけでも違うし、色々な地域コミュニティはそういう意味でも必要だと感じました。

司会 今日は、これからのコミュニティづくりに大変参考になるお話を、どうもありがとうございました。



「いこねっと」の活動風景